

愛知老人コミュニティーセンター ニュース



第31号

日本基督教団

愛知老人コミュニティーセンター

〒470-0111 日進市米野木町南山987-88

TEL. 0561-74-5548

FAX. 0561-74-5561

ホームページ <http://silverhome-makiba.jp>E-mail [info@silverhome-makiba.jp](mailto:info@silverhome-makiba.jp)

発行日 2018年2月22日

発行人 鈴木 卓也



## 「キリストの愛に満たされて」

愛知老人コミュニティーセンター  
新運営委員長 下村 徹嗣

昨年10月篠田潔先生のあとを受けて「まきば」の運営委員長に就任しました。急なことで心の備えもなく、また欠けたる器であることを自認しつつも、これも神のみ心と信じ、微力ですが精一杯努めてまいります。幸い宗教主事であられる小田部施設長、前施設長の鈴木さんも館長として残つておられるので、3人のトロイカ体制で運営に当たってまいる所存です。

昨年「まきば」は開設20年を迎えました。私も創立間もない頃から監事、理事、運営委員として関わってきましたが、創業期には財政的にも運営の面でも幾多の困難があり、いつまで存続できるだろうかとの不安さえ覚えたほどでした。関係者のご尽力によってそれらは徐々に克服され、特に13年前、篠田理事長（当時）、鈴木施設長体制になって以来、財政も安定し、運営も順調に進められ、7年前には週刊ダイヤモンド誌による有料老人ホームの評価で愛知県一番、全国でも有数の評価を得るまでに至り、現在でも高い評価を受けていることは、私たちの喜びでもあり誇りでもあります。

とは言え、超高齢社会、人口減少社会に突入しつつある現在、今後介護をめぐる環境もどうなっていくか予断を許しません。そういう中で、私たちはこの神の愛の証の一つとして建てられた「まき

ば」が、自然豊かな南山の地において立ち続けるようにしていかなければなりません。そのためには、まず現在そうであるように財政が安定していることです。

しかしまっと大切なことがあります。それは、キリストの愛という土台の上に「まきば」が立っているということです。「まきば」が入居者のみなさまにとって、終の棲家として、安全かつ安心して生きる喜びと希望をもって暮らせる施設であること、それを支える職員の皆様が喜びと生きがいをもって働ける施設であること、さらに入居者、職員という壁もなく、キリストの愛に満たされて、おたがい愛し合い、赦し合って、神の愛の共同体である家族を共に造り上げていく施設であることを願い祈っています。最後に一言、私たちはできれば近い将来に「隠退牧師専用館」新設の幻を有しています。

これらのこととは日本キリスト教団、中部教区の教会・伝道所の皆さん、地方自治体、地域、ボランティアの皆さんなど多くの方々の祈りやお支えなくしては実現できないことです。

どうぞよろしくお願いいたします。



# シルバーホーム「まきば」

## 開設20周年記念クリスマス礼拝特集



日本基督教団 総会議長 石橋 秀雄

20周年、おめでとうございます。前回、来させていただいた折は、施設が全国一位になったとお聞きし、「『まきば』は教団の宝です」とお伝えしました。すると、鈴木施設長はとても喜んでくださって、「どうか、議長もこの施設に入ってください。入居費は要りません」と約束してくださいました。

今回は、「『まきば』はこの時代の中で、『まきば』の時である」と、昨日も鈴木さんたちと食事をしながらお話しした次第です。しかし、我が家を持っていることを伝えてしまったので、「入る時には、家と土地を売ってから、それを献金してから入りなさい」と言われてしまいました。

「まきば」はこの時代の時である。

昨日、「まきば」では99歳で洗礼を受けた方があったとお聞きしました。ギネスものですね。今は120歳まで生きられる訳です。人生100歳時代の到来と言われています。65歳で定年、その後の人生が問われるのです。



▲クリスマス祝会での食事風景

教団は、2030年になると高齢化が進んで、高齢者が二分の一を占める。一般社会は三分の一と言われています。高齢化をただ悲観的に思う必要はありません。高齢化社会でキリスト者はますます輝いていく。パウロの言葉に「外なる人は滅びても、内なる人は新しくなる」とあります。日々新たにされていくのです。

脳科学者の中野信子に「脳科学と祈り」という

本があります。この方は仏教の立場ですが、その中で、「脳は鍛えられる。いつまでたっても鍛えられる」と言っています。

「何によって鍛えられるか?」、それは「良い祈り」「未来に対して生き生きと思い描くこと」、この二つで脳は鍛えられるといいます。「良い祈り」が脳内物質を発生させて、脳が活性化される。「未来に対して生き生きと思い描くことができる」、礼拝ですよね。復活ですよね。希望の世界ですね。日々新たにされていく訳です。「『まきば』はこの時代の中で、『まきば』の時である」のです。

皆さん、一番長生きの町はどこか知っていますか。京丹後市です。世界最高齢の男性、京丹後市の方でした。あの地域の方々は趣味が豊かで、全てを肯定的、前向きに受け止める。オートバイに乗れなくなった。免許を返した。もうダメだ。そうではない。オートバイがなければ、電動自転車があるじゃないの。それに乗ればいいんだ。全てを前向きに考えるんです。

これからは、「まきば」の時代ですね。礼拝を捧げます。先の本によれば、「良い祈り」とは、祈れない者のために祈る、敵のために祈る祈りだと言います。イエスの祈りです。敵を愛し、迫害するもののために祈れ。これが「良い祈り」です。

そして、礼拝を捧げて、未来を生き生きと思い描いてますね。この二つが、脳を活性化させる。長生きできるそうです。今こそが「まきば」の時代、「まきば」の時なのです。



▲挨拶する石橋総会議長



# 篠田潔前運営委員長の17年を振り返って

愛知老人コミュニティーセンター館長

鈴木 卓也

中部教区と意見の対立が顕著で、シルバーホーム「まきば」の運営が最も難しかった時期に、篠田潔牧師が理事長に就任されました。それから17年、経営も評価も安定して教団・教区からの協力も得られ、あとは念願だった隠退牧師館建設のタイミングを探っていた2017年10月、信頼する下村徹嗣牧師に後を託して突然の引退を宣言されました。93歳という年齢に加え、体調の変化からくる苦渋の決断であったと推察します。

私が施設長に就任したのは、篠田先生の理事長就任から3年後の2004年4月でした。昨年9月末に施設長を退任するまで13年半の間、ご一緒に施設の経営・運営に当たってきました。途中、教団のセンター明確化に伴い、役職名が理事長から運営委員長に変わりましたが、その責任と役割は変わりませんでした。

この13年半を振り返ってみると、篠田先生は人をやる気にさせる能力に秀でた方であったと思います。実に働きやすい環境を創り出し、職員個々の能力を引き出してくださいました。

2010年10月、ご夫妻で「まきば」に入居されました。入居後は、運営委員長兼入居者という難しい立場をうまく使いこなして、にこやかに過ごして来られました。ご自分の体調のことは表に出さず、頼まれたことは決して断らない面倒見の良さもお持ちでした。いつもご自分の体力を超える役割をこなしておられたように思います。感謝してもしきれない気持ちでいっぱいです。

後は、運営委員長の重荷を下ろして、シルバーホーム「まきば」での生活を、ゆっくり楽しんでいただきたいと願っています。



▲2004年当時の篠田先生



## 退任にあたって



17年前、戸田伊助初代理事長から引き継いだ時は、まだ建築時の借金もあり、苦しい運営が続いていました。間もなく就任した森岡廣實施設長が、介護保険の導入や介護度別上乗せ料金の設定など、苦労しながら軌道に乗せる努力を積み重ねてくれました。

その後、鈴木施設長が就任してから、無借金経営に転じ、地域での評価も安定してきました。週刊ダイヤモンド誌の有料老人ホームランキングで全国一位になった時は、皆、疑いの目で見ていたと思いますが、嬉しい出来事でした。しかしこれも、苦難の時から変わらず支えて下さった教区の皆様の力によるところが大きいと感謝に耐えません。

創立20周年記念礼拝を守ることができたのも、感謝でした。なお残っている願いは、牧会を終えても安定した住宅が得られない隠退教師の「終の棲家」が確保されることです。身体の衰えた私に代わって下村先生に後を委ね、その実現のために祈りの日々を送っています。

篠田 潔

## 特別企画

「まきば」にそよぐ新しい風

## 小田部新施設長に聞く

インタビュー：愛知老人コミュニティーセンター推進委員長 岩本 和則

昨年10月、小田部正一施設長が就任されました。入所者の方々からは孫の世代の新施設長。しかし、豊かな経験と篤い信仰に立ち、「まきば」の未来について語って頂きました。

**Q まず、生い立ちについてお聞かせください。**

小田部：1973年広島県で生まれました。両親とも牧師でしたので、任地の異動で福岡と大阪の教会で幼少期の信仰を養われました。その後、親元を離れ新潟の敬和学園に学び、神学校は農村伝道神学校へ導かれました。最初の任地は、当時、横綱曙が在籍していた東関部屋の二軒隣にある東駒形教会でした。

それから、名古屋教会の伝道師として2年、副牧師として1年、戸田伊助先生と共に奉仕しました。今思えば、その時に設立当初の「まきば」と出会っていました。ただ当時は、教会は福祉事業所「さぶらん生活園」との関係が中心で、「まきば」よりも、愛知国際病院の聖書集会へ年に一度行く程度の関わりでした。そして3年の後、岐阜地区の中濃教会へ転任しました。



▲名古屋教会伝道師時代  
(右は戸田伊助牧師)

**Q 岐阜地区での働きについてお話しください。**

小田部：中濃教会では、礼拝はもちろんですが、様々な社会問題に熱心な教会であったこともあり、幅広い学びの時を持てました。また、地区長の働きを経験したことにより、各個教会だけではなく地区、そして教区に属する教会という意識を強く感じられるようになりました。

特に岐阜地区は、教区全体の教会の祈りによる支えがなければ、立ち行かない教会が多くあります。牧師不在の教会へ説教奉仕者を送り出して下さった教会、尊い献金を捧げて下さった教区諸教会の皆様には心から感謝しています。



▲インタビューを受ける小田部正一施設長

**Q 中部教区に来られて20年。「まきば」も創立20周年ですね。**

小田部：特に「まきば」との関わりを振り返ると、最初の3年間は、「まきば」との出会いの時でした。まだ、建てられたばかりの「まきば」に名古屋教会の青年会を引き連れて、キャロリングへ行ったことを思い出します。



▲名古屋教会時代(青年と共に)

そして、中濃教会での17年間は、今から思えば備えの時であったと思います。着任当初より教会財政の困難を抱えて、教会の謝儀や教区の謝儀援助に頼るだけではなく、教会として教師として「自立」するためにも、キリスト教関係学校で教師として働くために、教員資格の取得が必要となりました。

そこで、まず中部学院大学「人間福祉学部人間福祉学科」の通信教育で福祉の教員資格取得を目指しました。その後、上智大学でキリスト教専門教科、佛教大学で宗教の基礎的な単位を取得し、約8年掛けて教員免許を取得しました。



▲「まきば」での戸田牧師夫妻と共に

**Q** 教員資格の取得が、福祉との関わりのきっかけとなつたのですね。

小田部：私個人としては、中部学院大学での学びを通して、これからますます高齢化していく日本で、福祉を担う人材の大切さだけではなく、相手に寄り添う相談援助技術を学ぶ時が与えられたことは、とてもプラスになったと思います。

また、この国が抱える課題として7年後の「2025年問題」を教会はどう受け止め、対応していかなければならぬのか、考えさせられる時もありました。

教会でも高齢化が進み、青年層が減っていることに対する「青年伝道」が叫ばれています。しかし、この「2025年問題」に教会として、どのように対応していくのか、問われる時を迎えていたと思います。

中部教区には、教団のセンターが運営する「まきば」があります。これまで「まきば」は入居施設として捉えられていることが多かったと思います。しかし、今こそ教会が「まきば」を活用する時ではないかと思っています。

教会員の中には、介護の必要な方々もおられると思います。また実際に介護サービスを利用されている方、ご自分がご家族の介護を担っている方もおられると思います。

「まきば」には、これまでの20年間、介護を担ってきた経験や、様々な事例をもっています。

皆様に求められる知識を提供することができると思います。ですから、今が「まきば」を活用する時だと思いませんか。そのために福祉の学びの時が与えられ、用いられようとしているのかと思っています。

そういう意味でも、これまでの20年間は「出会い」の時であり、「備え」の時であったと思います。

**Q** 「まきば」に遭わされる経過について、お聞かせください。

小田部：中濃教会が創立70年を控え、記念誌や記念礼拝の計画を始めた頃に、ある教会から招聘の話がありました。そして相手方には、70周年の業を終えてからの異動をお願いしましたが、実現には至りませんでした。しかし、その頃から70周年を区切りとして、神様から自分に求められているものは何なのかと思うようになりました。

無事に創立70周年記念礼拝を終えることができ、その年のクリスマスに記念誌発行の目処がついたこともあり、10月の役員会で辞任を申し出て、受け入れられました。

その後、たまたま教区常置委員会で三役に辞任の報告をし、これから今後のことを考える旨を伝えまし

た。ところが、常置委員会が終わった直後に、突然、鈴木卓也前施設長から電話があり、「中濃教会を辞任されることを小耳に挿みましたが、先生が考えられる任地の中に『まきば』はありますか?」と尋ねられました。

これまでセンター推進委員として、「まきば」に関わらせていただく機会はありましたが、正直、最初は戸惑いました。



▲名古屋教会聖日礼拝での説教

**Q** 「教会」以外の任地に抵抗はありませんでしたか。

小田部：私は、最初に自分を招聘して下さる「教会」に赴くつもりでいました。しかし、「まきば」では第一金曜日に礼拝と聖餐式が行われ、その他の金曜日には「聖書の集い」が行われています。

そこでは終の棲家の羊の群れが、牧者イエスに養われていることに気付かされ、「まきば」には宗教主事が必要と示されました。

**Q** 「まきば」での将来の夢は?

小田部：これまで20年間の「まきば」に対しての、信頼と実績には確かなものがあります。それは「まきば」を終の棲家として希望される予約の方々の数の多さを見ればわかります。

私が「まきば」に遭わされた背景には、日本基督教団のセンターとして、これから迎える「超高齢社会」にあって、日本の社会問題としてだけではなく、教会に集う方々が抱える加齢に伴う様々な問題や介護の問題に対して寄り添える施設として、新たな働きが求められているのではないかと思います。用いていただければ幸いです。



# まきばトピックス

このページでは、日本キリスト教団愛知老人コミュニティーセンターが運営する有料老人ホーム、シルバーホーム「まきば」でおこなわれた行事や近隣での出来事を紹介するコーナーです。

## 愛知東西合同教師会



▲介護食対応聖餐食材の作り方実演



◀試食

2017年7月10日（月）に愛知東西合同教師会がシルバーホーム「まきば」にて行われました。今回は、「まきば」で用いられている「介護食対応聖餐食材の作り方」について、日清医療食品株式会社インストラクター松岡哲矢氏に協力のもと実演と試食をしていただきました。

嚥下能力が低下しているお年寄りの方が、最後まで聖餐に与られるようにと「まきば」が関係機関と協力して開発した3パターンのレシピを披露していただきました。

高齢者だけではなく、消化器官の病気や術後の際にも、ご利用頂けるのではないかと思っています。

## 病床聖餐式

前号でも取り上げたように、「まきば」に宗教主事が与えられたことにより、「まきば」で行われる礼拝・聖餐式の時だけではなく、宗教主事が病床にて聖餐式を実施しています。また、近隣施設にて、教会から委託をうけ病床洗礼式もおこなっています。

「まきば」に与えられた働きが広がりつつあり感謝です。

宗教主事が居室を訪問しての聖餐式▶



## 「まきば」で洗礼式が行われました



▲金城教会 木下牧師による洗礼式



◀介護食対応型聖餐食材が使われています

2017年12月8日(金)15:50より、シルバーホーム「まきば」礼拝室において、金城教会の洗礼式及び聖餐式が執り行われました。所属教会は違えども、信仰を同じくする入居者の方々が立ち会い、兄弟の信仰告白を聞くときが与えられました。

翌日9日に90歳を迎えるこの時まで、主が導いてくださったこと、また、この時を私たちの思いを超えて備えてくださっていた神様のご計画の時に同席できることを参加者一同感謝しました。

洗礼式後は、3日前に按手礼を受けられたばかりの金城教会の畠先生司式による聖餐式に共にありました。「まきば」という器を通して、神様の栄光が顯わされています。まさに「『まきば』の時」であります。

これからも神様に備えられた道を歩む群れとして、礼拝、そして、聖餐を通して養われていきたいと思います。



## 職員が受洗しました



2017年12月24日(日)11時より、南山教会のクリスマス礼拝において、「まきば」の職員が受洗の時を迎えました。これまでお母様や「まきば」に関わってくださるボランティアの方々、そして「まきば」内での行事や入居者に対しての働きを通して求道者となられ、信仰を育まれてきました。

神様の導きによって「まきば」という働きの場が備えられたことは、「まきば」にとって喜びの出来事であります。

◀受洗した介護職員  
渡辺笑子さん

前の記事でも紹介したように、入居者と職員の「ダブル受洗」という出来事は、神様が「まきば」という器を大いに活用してくださり、それに関わる多くの人々と共に、喜びを共有させてくださっていると信じ感謝しています。

このような奇跡が起こっている「まきば」に、皆様も来てみませんか?



▲南山教会 村山牧師による洗礼式

# スタッフ募集

牧場の緑に囲まれた自然豊かな環境の中で、  
人格を大切に守る介護を実践してみませんか?  
信仰生活の支援も大切な仕事の一つです。



正職員への任用制度もあります。これから資格取得を目指している方もご相談ください。

●交通費全額支給 ※詳細はお電話ください。0561-74-5548(担当:施設長)

## 入居予約受付中



シルバーホーム「まきば」と共に祈りの生活を……  
広い牧場を臨み、近くに愛知池があり、  
緑豊かな自然に包まれて暮らす……  
真向かいに病院があり、牧場をはさんで教会もあります。

**交通機関** 名鉄豊田線(名古屋市営地下鉄鶴舞線より直通乗り入れ)黒笹駅から900m  
東名高速道路・三好ICから3.4Km 日進市公共巡回バス・南山エピック南から200m

**類型及び表示事項** 施設の類型／介護付有料老人ホーム(一部住宅型) 居室の権利形態／利用権方式  
介護保険／愛知県指定特定施設入居者生活介護・介護予防特定施設入居者生活介護  
入居時の要件／60才以上で入居時自立及び要支援の方  
居室区分／個室及び二人部屋 介護にかかる職員体制／2:1以上

●お問い合わせ先 シルバーホーム「まきば」 TEL.0561-74-5548

## 編集後記

「まきば通信第31号」の特別企画(4-5のカラーページ)は「小田部正一新施設長」:「まきば」の施設長が13年ぶりに新しくなったことです。「まきば」は設立20年を経ました。当初次々に代わった施設長の後、鈴木施設長は13年間在任し、「『まきば』を日本一に」導きました。「その後を担う施設長は、大変だろうに。」と思われる方があるかも。大丈夫です。小田部新施設長は着々と働きを進めています。それを今号特別企画の「カラーページ」で味わってください。「新しい歌を主に向かって歌っています」から。

尚、鈴木卓也前施設長は愛知老人コミュニティセンター館長(この『まきば通信』発行等)の任は引き続き務めます。みなさん!「まきば」を応援してください。(久美江)

### 看護職員(昼間)

週1日~5日

【資格】看護師、准看護師

【勤務】基本は9:00~18:00(休憩1時間)ですが、勤務時間は相談に応じます。

### 看護職員(夜間)

週1日程度から。曜日に限定がある方は相談に応じます。

【資格】看護師、准看護師

【勤務】18:00~翌8:00(仮眠4時間あり)

【手当】精勤手当あり

### 介護職員(昼間)

週2日~5日

【資格】介護福祉士、介護職員初任者研修修了  
(ホームヘルパー)

【勤務】7:00~18:30の間で実働8時間

### 見学や体験入居もできます(要予約)

#### キリスト教プログラム

「礼拝」「聖餐式」「聖書の集い」「讃美の集い」などの定例集会が毎週施設内であり、自由に参加できます。主日礼拝出席者のために、日本基督教団南山教会からバスが迎えに来ます。その他、南山教会の「聖書研究祈祷会」、真向かいにある愛知国際病院の「聖書集会」にも自由に出席することができます。

